

予算編成のあり方に関する検討会・論点整理
＜基本的な方向性　－４つの改革の柱－＞

新政権においては、国民主権のもとで、納税者の視点に立った予算編成を行い、予算の効率性を高めていきます。そのために、以下の「４つの改革の柱」を定め、可能なものは22年度予算編成から、速やかに実行に移してまいります。

【第1の柱】 複数年度を視野に入れた、トップダウン型の予算編成

- ・ 新政権は、従来のような、各省別の要求積み上げ型の予算編成プロセスを抜本的に改める。
- ・ トップダウンで省庁横断的な予算編成を行い、官僚主導・縦割り行政の弊害を排除する。
- ・ 中長期的視野に立った複数年度の財政計画を策定し、規律ある財政運営を行う。

【第2の柱】 予算編成・執行プロセスの抜本的な透明化・可視化

- ・ これまで、予算編成の実態は国民の目から見えにくく、どの予算がどのように決まったのか、また、どのように使われたのかが分かりにくい、いわば密室での作業であった。
- ・ 新政権においては、インターネットなどを活用して予算編成・執行プロセスを透明化・可視化し、国民への情報開示を強化する。これにより、国民自身の目でムダをチェックできるようにする。

【第3の柱】 年度末の使い切り等、ムダな予算執行の排除

- ・ 予算を毎年度編成し国会で議決する単年度原則は、憲法上の重要なルールではあるが、予算執行の現場では、予算を年度末に無理やり使い切るといったムダが生じているとの指摘がある。
- ・ 財政規律を維持しつつ、同時に使い切り等のムダを排除するため、次年度への繰越制度の一層の活用など、政府において最大限の工夫・改善を行うとともに、これに対応するための体制整備を行う。

【第4の柱】 「政策達成目標明示制度」の導入により、国民に対する成果を重視

- ・ 英国の「公的サービス合意」制度を参考とした、「政策達成目標明示制度」を導入する。
- ・ どのような政策を行うかではなく、その政策が国民に何をもたらしてくれるのか、具体的な「成果」を重視した目標を立てる。目標の達成度はしっかりと客観的に検証する。
- ・ これにより、国民への説明責任を十全に果たすとともに、より少ない予算で、より高い目標を達成するよう努力する。
- ・ 政策評価の実施にあたっては、民間のノウハウも積極的に活用していく。